

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18330108
研究課題名（和文） 「社会調査史の博物館」としてのリージョン拠点データアーカイブの構築
研究課題名（英文） The construction of region-based data archives as the museum of histories of social researches
研究代表者
大國 充彦（OKUNI ATSUSHIKO）
札幌学院大学・社会情報学部・教授
研究者番号：40265046

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：社会学 社会調査 データアーカイブ

1. 研究計画の概要

本課題は、札幌学院大学の「SORD データアーカイブ」を拠点として、社会学史上大きな意義を有している二つの調査水脈の整理・管理・公開を軸にして、「社会調査史の博物館」構築を目指すプロジェクトである。二つの調査水脈とは、かつて布施鉄治らの北海道大学グループが実施した「夕張調査」と関連諸調査、および東京大学似田貝グループが実施した諸調査である。これまでわが国の、少なくとも社会学会においては、主導的研究者の調査資料であっても退任後は散逸することが常態化していた。本研究によって、このような学問的損失に歯止めをかけるモデルを示すことができる。さらに意義の大きい調査資料を再利用可能なものにする事で、社会（調査）史の再定置、地域社会の記憶の保存、社会学におけるアーカイブズ学（とくに電子化による資料保存技法）の発展に寄与することができる。

2. 研究の進捗状況

過去3年度をかけて、SORD データアーカイブで受け入れた上記二つの調査水脈に関連する段ボール120箱程度のオリジナル・データセットの開梱・配架・インデックス作成をほぼ終了させた。さらに、「夕張調査データセット」に関しては、調査票の電子化（PDFファイル化）、データベースソフトを利用した電子データ化（キーワード検索可能な状態とする作業）が順調に進捗し、平成20年度末には『夕張調査資料集成（試作版）』をまとめることができた。

また、戦後北海道における社会調査史の検討を「北からみる社会調査史」（仮称）とし

て科研報告書としてまとめられるようにする。戦後北海道で出版された社会調査関係の文献を読み込み、簡易データベースを作成したうえで『日本社会調査の水脈』（江口英一）に倣った形で、北海道社会学史（それはある地域特性に根ざした、社会学のありうる展開の一つの現象形態である）を、調査の過程と成果を基盤にして描き直す。そのために、論文単位で公表されている調査の成果を、調査単位に読み直す作業に取りかかり、現在、進行中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進捗している。

社会調査資料の整理に関しては、順調に作業を進めている。戦後北海道で公表された社会調査関係の論文を調査単位に変換して整理する作業も進捗中である。

ネックとなるのは、「夕張調査データセット」の公開に関して、調査票記載の個人情報などをどのように保護するのかという指針と、具体的な対策である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 布施鉄治による夕張調査関連の資料整理を集成し、原データの関連性と一覧性を読者の手元に届けられる『夕張調査資料集成』を試作版から完成版へと改訂する。具体的には、試作版冊子体の改訂をすすめるほか、コレクションインデックスや調査個票テキストデータベースを電子データ化して付属 CD-ROM に収録できるようにする。

(2) 「北からみる社会調査史」（仮称）について、現行通り、作業を進める。

(3) 整理が終わったコレクションのインデ

ックスを整備し、Web 上で公開できるようにする。また個人情報保護についての検討を行い、今後予想される資料閲覧希望に対応できるようにする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

- ①中澤秀雄、西城戸誠、大國充彦、新國三千代、祐成保志、新藤慶、小内純子、高橋徹、「社会調査のアーカイブズ学」の必要性-札幌学院大学SORDが取り組んだ「夕張調査資料集成」作成経験からの提言-、理論と方法、査読有、45巻、2009、掲載決定・印刷中
- ②中澤秀雄、齋藤康則ほか3名、第21回SORDワークショップ報告、社会情報(札幌学院大学社会情報学部)、査読無、18(2)、2009、31-103
- ③小内純子ほか2名、第20回SORDワークショップ報告、社会情報(札幌学院大学社会情報学部)、査読無、18(1)、2008、83-115
- ④大國充彦、似田貝香門ほか1名、第19回SORDワークショップ報告、社会情報(札幌学院大学社会情報学部)、査読無、16(2)、2007、101-154

〔学会発表〕(計1件)

- (1)齋藤康則、社会学における質的データの電子化の試み-炭鉱都市・夕張をフィールドとした『北大・生活社会学研究会』の調査データに即して-、日本アーカイブズ学会、2008年4月20日、学習院大学

〔その他〕

ホームページ:「SORD データ・アーカイブ」
<http://su10.sgu.ac.jp/sord/>